



日本小児歯科学会九州地方会 創立20周年によせて

長崎大学名誉教授 後藤 譲 治

この度は日本小児歯科学会九州地方会創立20周年まことにおめでとうございます。

かえりみますれば、私が長崎大学歯学部小児歯科学講座の初代教授として着任した昭和58年に九州地方会が創立され、その設立にも携わることができましたことは幸いです。

あれから20年、時のたつのは誠にはやいものです。

九州地方会は、九州の5大学の小児歯科学講座を中心に、九州各地の小児歯科研究会のメンバー、有志などが加わり、はじめは少人数の会員でスタートいたしましたが、現在では日本小児歯科学会の全国6地方会のうち2番目の人数の会員を擁するまでに発展いたしました。ここに至るには実に多くの各位のお力添え、ご尽力、ご協力の賜物と感謝いたします。

私は平成4年から2期、4年間に渡って九州地方会の会長を務めさせて戴き、4回の地方会大会を開催することができました。またその間、毎年1度ずつ計4回の地方会会報を発行させていただきました。当時は九州地方会の予算というものは全くありませんでしたので、会報および会員名簿の作成、発行等はすべて自前で行い、そのため多くの各位にご協力いただきましたことを感謝いたします。

この20年を振り返ってみますれば、九州地方会設立当時とは時代も大分変化いたしておりますし、歯科界も大きく変貌をとげております。これからの地方会に求められるのは、いっそう地域に密着した地方会、そして会員あつての地方会、そして日本の子供達のためを考える地方会かと存じます。

さて、21世紀のこれからの小児歯科の目指すところといたしましては、平成14年11月3日の20周年記念講演の折りにも申しあげましたように、予防を中心とした〈痛くない小児歯科〉、そして歯科医師は痛い歯を治す人のイメージをチェンジして、お口の健康、さわやかさ、美しさの増進に役立つ〈小児歯科審美〉を指向するのが妥当な方向性かと存じます。なぜなら、これからの日本を背負って立つ大切なお子様が、お口の病気で苦しむことなく、より美しく、より健やかに育ってほしいと願うのは、我々小児歯科に携わる者の共通した願望であるからです。

今後日本小児歯科学会九州地方会のますますの発展を祈念いたします。